

## 1. はじめに

- 「英語の使役移動構文において、動詞が本来選択しない目的語（非選択目的語）は、経路句を伴う場合にのみ現れる」という見解は広く共有されている（Rappaport Hovav & Levin 1996, 1998 他）

(1) Sandy wiped the table. [wipe <表面>]

(2) a. Sandy wiped the crumbs off the table. [wipe <付着物> <経路句>] (Rappaport Hovav & Levin 1996)

b. \*Sandy wiped the crumbs. [\*wipe <付着物>] (ibid.)

- しかし、直接目的語として<付着物>が来ているにもかかわらず経路句を伴わない実例も観察され、英語母語話者に容認性を尋ねると容認可能であると判断されることも多い

(3) Isaacs wiped the sweat with his sleeve ... [wipe <付着物>] (松本 2005)

- 本発表の目的：(3) のような経路句を伴わない非選択目的語使役移動構文の使用実態と特徴についてコーパス調査を中心に探り、構文ネットワークの中でどのように位置付けられるか検討する。本発表の主張は次の通り  
→ (3) のような構文は、①意味的特徴からすると、使役移動構文というより他動詞構文カテゴリーに入る事例である。②それと同時に、非選択目的語使役移動構文の拡張事例としても見なすことができる

## 2. 先行研究

- Rappaport Hovav & Levin (1996, 1998)：動詞ではなく経路句が非選択目的語を認可する（“these nonstandard objects [= (2) における the crumbs] are licensed by the result phrase rather than by the verb itself” (Rappaport Hovav & Levin: 1996)）。そのため、経路句を伴わない場合には容認不可能となる

- 松本（2005）：経路句なしで非選択目的語が現れる事例（3）を提示

- Levin (2017)：

- 経路句を括弧に入れた（4）を挙げ、“Usually, the material [= (2) における the crumbs] is only felicitous as the object when it cooccurs with a directional complement, [...]. [...] it appears that the directional complement licenses the material as object” (Levin 2017: 579) というように、Rappaport Hovav & Levin (1996, 1998) と比べると弱い言い方となっている。しかし「経路句が非選択目的語を認可する」という考え方自体は変わっていない

(4) Terry is wiping the stains (off the counter). (Levin 2017: 579)

- 経路句を伴わない事例をどう扱うかについては述べられていないものの、「動詞ではなく経路句が非選択目的語を認可する」という考え方を維持するためには、例えば「(3) において、意味的には経路句（例えば、from his forehead）が存在しているものの、形式的には省略されている」と考えることになる

- 本節のまとめ：

- 経路句を伴わない非選択目的語使役移動構文の存在自体は認識されているものの、それについての記述や分析は（管見の限り）存在していない
- 「非選択目的語は経路句によって認可される」と考えるのであれば、「(3) において経路句は意味的には存在しているが形式的には省略されている。つまり (3) は使役移動構文の一種である」と考える必要がある

### 3. コーパス調査

#### 3.1 方法

- 目的: [wipe <付着物>] が実例として本当に存在するのか、存在するとすればどのくらい存在するのか。  
コーパスデータを観察することで使用実態を探る。特に直接目的語名詞句に注目し、清掃行為及び添加行為を表す wipe 非選択目的語使役移動構文の用例を収集、分析する
- 使用コーパス: The Corpus of Contemporary American English (以下、COCA と略記)  
…1990 年から 2017 年までの資料を収集した、収録語数 5 億 6 千万語の現代アメリカ英語均衡コーパス
- データ抽出方法:
  - ① wipe のレンマ形右側 5 語以内に生起する名詞を検索
  - ② 直接目的語名詞が<付着物>であり、清掃/添添加行為を表す用例を収集。該当しない用例は取り除く
  - ③ 構文形式に基づいて表 1 のように用例进行分类 (頻度 10 未満の名詞は切り捨て)
- その他検索について (用例は全て COCA より):
  - 調査に含まなかった事例: メタファー的移動を表す事例 (I demand you wipe that ridiculous smile off your face)、  
清掃行為ではない除去を表す事例 (Four years ago, a massive tornado nearly wiped the city of Greensburg off the map)
  - [wipe <付着物 (修飾あり)>] と [wipe <付着物> <経路不変化詞>] の両方に当てはまる事例  
([...] and wipe away the water chilling her skin) → [wipe <付着物> <経路不変化詞>] に分類  
[wipe <付着物> <経路不変化詞>] と [wipe <付着物> <経路前置詞句>] の両方に当てはまる事例  
(She wiped the stinging perspiration away from her eyes) → [wipe <付着物> <経路前置詞句>] に分類

表 1: 構文形式による非選択目的語使役移動構文の分類

構文形式		備考と用例 (用例は全て COCA より)
経路句なし	[wipe <付着物 (修飾なし)>]	項として<表面>が表現されていないもの 例: I nodded and <u>wiped my tears</u> .
	[wipe <付着物 (修飾あり)>]	経路句 (つまり項) ではないものの、前置詞、関係詞、分詞など目的語名詞への修飾要素で<表面>が表現されているもの 例: [...] he <u>wiped the sweat running down his forehead</u> with a handkerchief, [...]
経路句あり	[wipe <付着物> <経路不変化詞>]	経路不変化詞が動詞直後にある事例 (例: wipe <u>away</u> tears) も直接目的語より後方にある事例 (例: wipe tears <u>away</u> ) も両方含める 例: <u>Wipe off your makeup</u> and you're younger than my daughter, probably.
	[wipe <付着物> <経路前置詞句>]	先行研究において中心的に扱われている事例 例: Bud <u>wiped the last crumb from his chin</u> with a deep sigh of contentment.
その他	[wipe at <付着物>]	動能構文 例: Crouching, Caesar <u>wipes vigorously at the blood on his hands and face</u> .
	[wipe up/down <付着物>]	完了アスペクトを表す不変化詞 例: Jerrie looked down, pulled a rag from a pocket, and cleanly <u>wiped up the spill</u> .

### 3.2 結果

➤ データ：名詞タイプ 45 つ、合計 2504 つの用例を得た（表 2）

表 2：名詞ごとの各構文形式への出現頻度と割合（〔経路句なし〕の頻度が多い順に列挙）

名詞	計	経路句なし		経路句あり		その他	
		修飾なし	修飾あり	不変化詞	前置詞句	動能	アスペクト
tear	885	127 (14.4%)		734 (82.9%)		24 (2.7%)	
		120 (13.6%)	7 (0.8%)	392 (44.3%)	342 (38.6%)	23 (2.6%)	1 (0.1%)
sweat	456	22 (4.8%)		425 (93.2%)		9 (2.0%)	
		8 (1.8%)	14 (3.1%)	30 (6.6%)	395 (86.6%)	9 (2.0%)	0 (0.0%)
blood	229	8 (3.5%)		206 (90.0%)		15 (6.6%)	
		5 (2.2%)	3 (1.3%)	44 (19.2%)	162 (70.7%)	11 (4.8%)	4 (1.7%)
drool	22	5 (22.7%)		16 (72.7%)		1 (4.5%)	
		5 (22.7%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	13 (59.1%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)
fingerprint	27	3 (11.1%)		23 (85.2%)		1 (3.7%)	
		2 (7.4%)	1 (3.7%)	6 (22.2%)	17 (63.0%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)
dust	77	2 (2.6%)		71 (92.2%)		4 (5.2%)	
		0 (0.0%)	2 (2.6%)	22 (28.6%)	49 (63.6%)	1 (1.3%)	3 (3.9%)
snot	15	2 (13.3%)		13 (86.7%)		0 (0.0%)	
		1 (6.7%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	12 (80.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
drop	20	2 (10.0%)		15 (75.0%)		3 (15.0%)	
		1 (5.0%)	1 (5.0%)	3 (15.0%)	12 (60.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)
bead	28	2 (7.1%)		25 (89.3%)		1 (3.6%)	
		1 (3.6%)	1 (3.6%)	4 (14.3%)	21 (75.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
grease	36	2 (5.6%)		32 (88.9%)		2 (5.6%)	
		1 (2.8%)	1 (2.8%)	6 (16.7%)	26 (72.2%)	0 (0.0%)	2 (5.6%)
stain	13	2 (15.4%)		8 (61.5%)		3 (23.1%)	
		2 (15.4%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	5 (38.5%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)
water	57	2 (3.5%)		51 (89.5%)		4 (7.0%)	
		2 (3.5%)	0 (0.0%)	9 (15.8%)	42 (73.7%)	0 (0.0%)	4 (7.0%)
...							
計	2504	190 (7.6%)		2209 (88.2%)		105 (4.2%)	
		156 (6.2%)	34 (1.4%)	701 (28.0%)	1508 (60.2%)	58 (2.3%)	47 (1.9%)

➤ データから分かることと考察

- 全体について：各構文タイプを頻度・割合順に並べると次の通り（「その他」は除く）

多	[wipe <付着物> <経路前置詞句>] (例：wiped tears from her cheeks)	…	1508	(60.2%)
↑	[wipe <付着物> <経路不変化詞>] (例：wiped her tears away)	…	701	(28.0%)
↓	[wipe <付着物（修飾なし）>] (例：wiped her tears)	…	156	(6.2%)
少	[wipe <付着物（修飾あり）>] (wiped the tears on her cheeks)	…	34	(1.4%)

- 目的語名詞について：

☆ 「経路なし」の頻度上位には、tear, sweat, blood, drool といった体液が来ている

☆ 各構文形式の中での「経路なし」の割合で見ると、体液の中でも、drool (5/22 (22.7%)) , tear (127/885 (14.4%)) のような「<表面>をデフォルト的に指定している名詞」が目を引き。経路前置詞句を付けなくても「どこから移動させられるか（除去されるか）」を理解することが容易だからであると考えられる

- その他について：

☆ 完了を表すアスペクト不変化詞 (up/down) を伴う事例が見られた。ほとんどが up で down は1件のみ。特に、spill (10/13 (76.9%)) と mess (8/15 (53.3%)) で多く観察された

✓ 経路不変化詞だけでなく、アスペクト不変化詞も項構造（特に直接目的語の選択）に影響を与える可能性がある (cf. Walková 2017)

☆ 動能構文 (conative construction) ([wipe at <付着物>]) が観察された

✓ 「経路なし」の用例のみで「経路あり」の用例は1つも見つからなかった。作例調査でも同様、経路句を後続させると容認性が大きく低下する（アメリカ英語母語話者三名による評価）

- (4) a. She wiped at her tears. [wipe at <付着物（修飾なし）>]  
b. She wiped at the tears on her cheeks. [wipe at <付着物（修飾あり）>]  
c. \*She wiped at her tears away. [wipe at <付着物> <経路不変化詞>]  
d. ??She wiped at tears from her eyes. [wipe at <付着物> <経路前置詞句>]

✓ 動能構文は<動作>を焦点化する構文であり、使役移動構文は<結果>を焦点化する構文であるため、両構文は両立不可 (\*He sawed at a branch off the tree (影山・高橋 2011: 128-130))

→ [wipe <付着物（修飾なし／あり）>] が動能構文と両立可能であるということは、[wipe <付着物（修飾なし／あり）>] は<結果>を焦点化していないということになる

→ [wipe <付着物（修飾なし／あり）>] は形式的にも意味的にも他動詞構文 (SVO 構文) に近く、文法的振る舞いの点からすると、使役移動構文の一種と見なすことは難しい

➤ 本節のまとめ

- [wipe <付着物> <経路前置詞句>] が最も頻繁に用いられる構文形式であるものの、「経路句なし」も全体の 7.6% 観察される

- <表面>をデフォルト的に指定している名詞が [wipe <付着物>] の目的語として現れる傾向

- [wipe <付着物>] が動能構文と両立する事例が観察される。動能構文は使役移動構文と両立不可能である点からすると、[wipe <付着物>] は使役移動構文よりも他動詞構文に近い特徴を持つ

#### 4. 構文ネットワークにおける位置付け

##### 4.1 [wipe <付着物>] の他動詞構文の特徴

###### ➤ 構文の定義から考える

- 構文 (construction) とは：あらゆるサイズと抽象度の「形式-意味」の統合体 (cf. Goldberg 2006: 5)
- [wipe <付着物 (修飾なし/あり)>] (移動非焦点化) と [wipe <付着物> <経路句>] (移動焦点化) は形式と意味の両面において異なっているため、異なる構文として認定できる

###### ➤ 構文の複合から考える

- 実際の表現は、典型的には多くの異なる構文を複合したものであり、それぞれの構文が衝突していないと解釈される限りにおいて、複数の構文を自由に組み合わせることが可能 (Goldberg 2006: 21-22)
- [wipe <付着物>] は他動詞構文であるため、動能構文と衝突しない→容認可能  
[wipe <付着物> <経路句>] は使役移動構文であるため、動能構文と衝突する→容認不可能

##### 4.2 [wipe <付着物>] の非選択目的語使役移動構文の特徴

###### ➤ メトニミーの関与から考える

- [wipe <付着物>] が他動詞構文で [wipe <付着物> <経路句>] が使役移動構文であるものの、両者に何の共通性もないわけではない。両者には共通して「付着物-表面」のメトニミー的關係が関与しており、どちらも [wipe <表面>] と図地反転の關係にある (cf. Langacker 1999: 327-328)
- 非選択目的語使役移動構文の大多数が経路句 (経路不変化詞、経路前置詞句) を伴うこと、また [wipe <付着物 (修飾なし)>] だと直接目的語として<表面>をデフォルト的に指定する名詞が多いのは、それらによって「付着物-表面」メトニミー (図地反転) の解釈が容易になるためであると考えられる  
→ [wipe <付着物>] は、メトニミー (図地反転) が関わるという点においては [wipe <付着物> <経路句>] と極めて近い性質を持つ  
→ 前者の頻度が少なく後者の頻度が多いことを踏まえると、形式と意味の両面で異なるものの、[wipe <付着物>] は [wipe <付着物> <経路句>] からの拡張構文として考えるのが妥当ではないか

##### 4.3 [wipe <付着物>] の構文ネットワークにおける位置付け

- [wipe <付着物>] は [wipe <付着物> <経路句>] から拡張した結果として他動詞構文カテゴリーに入り、他動詞構文の意味的特徴を色濃く持つようになったと考えられる (図 1)

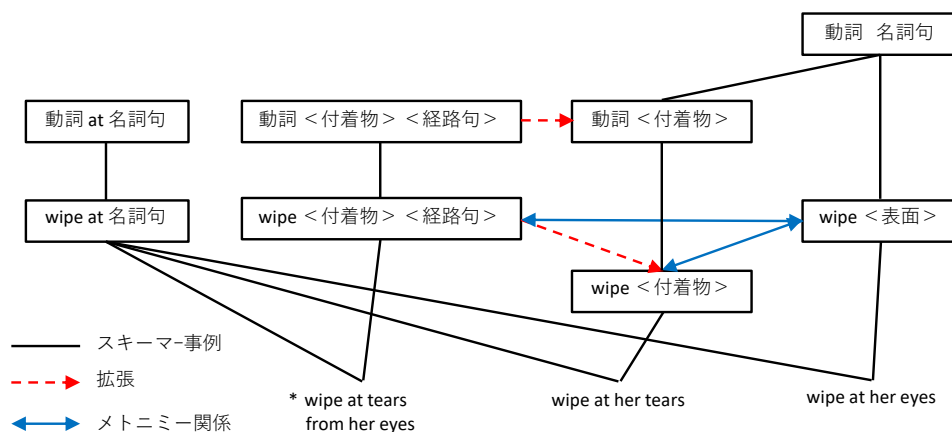


図 1 wipe 非選択目的語使役移動構文周辺の構文ネットワーク

## 5. まとめ

### ➤ 本発表のまとめ

- **どのくらいあるか**：「経路句なし」の事例は、清掃／添加行為を表す **wipe** 非選択目的語使役移動構文全体のうち 7.6%ほど存在している
- **特徴①**：「経路句なし」は動能構文と複合可能であるという点では他動詞構文に近い性質を持つ
- **特徴②**：「経路句なし」は、何らかの形で＜表面＞を指定する点、非選択目的語を伴っている点、メトニミー（図地反転）が関与している点では非選択目的語使役移動構文に近い特徴を持つ
- **どう位置付けられるか**：以上のことは、①「経路句なし」は他動詞構文カテゴリーに属するものである、②「経路句なし」は「経路句あり」からの拡張構文である、と考えることで捉えられる

### ➤ 「結局、省略でいいのでは？」という見解に対して

- **She wiped the tears on her cheeks**（「wipe ＜付着物（修飾あり）＞」）のような表現の存在はどう説明する？言語表現の省略によって作られるのであれば、**She wiped the tears on her cheeks off her cheeks** から作られることになるが、このような言い方は存在しない
- 「wipe ＜付着物＞」を「wipe ＜付着物＞ ＜経路句＞」からの省略と考えるのであれば、「省略」の内実が明らかにされている限りにおいて、それでも構わない。重要なのは、＜経路句＞を省略した結果として他動詞構文としての性質（動能構文と共起可能）を持つようになっており、そのことについては何らかの形で捉えなければならない、ということ

### ➤ ワークショップにおける【問題】について

【問題①】 構文の意味を特定の語（例えば、動詞）の意味に帰することができるか？

→全部はできない！**wipe tears**のような表現が、①非選択目的語（＜付着物＞）を伴っていること、②頻度的に見て周辺的な表現であることは、**wipe**（の意味）のみから予測することはできない

【問題③】 形式が異なる構文に動機付け関係を認めるべきか？

→今回のケースについては、認めるべき！「wipe ＜付着物＞」が「wipe ＜付着物＞ ＜経路句＞」に動機付けられている可能性があることを本発表では示した

## 参考文献

- Goldberg, Adele E. 2006. *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language*. Oxford: Oxford University Press. / 影山太郎・高橋勝忠. 2011. 「直接目的語と前置詞付き目的語」 影山太郎（編）『日英対照 名詞の意味と構文』 119-146. 東京：大修館書店. / Langacker, Ronald W. 1999. *Grammar and Conceptualization*. Berlin: Mouton de Gruyter. / Levin, Beth. 2017. The elasticity of verb meaning revisited. Dan Burgdorf, Jacob Collard, Sireemas Maspong, and Brynhildur Stefánsdóttir (eds.) *Proceedings of the 27th Semantics and Linguistic Theory Conference*. 571-599. / 松本曜. 2005. 「移動表現と使役移動表現における語の意味と「構文」の意味」 *Morphology & Lexicon Forum*. 5月15日. 関西学院大学大阪梅田キャンパス. Available at: <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~yomatsum/papers/MLF.pdf> [アクセス日：2019年5月14日] / Rappaport Hovav, Malka and Beth Levin. 1996. Two types of derived accomplishments. In Miriam Butt and Tracy Holloway King (eds.) *The Proceedings of the First LFG Conference*. 375-388. Stanford: CSLI Publications. / Rappaport Hovav, Malka. and Beth Levin. 1998. Building verb meanings. In Miriam Butt and Wilhelm Geuder (eds.) *The Projection of Arguments: Lexical and Compositional Factors*. 97-134. Stanford, CA: CSLI Publications. / Walková, Milada. 2017. Particle verbs in English: Telicity or scalarity? *Linguistics* 55(3): 589-616.